

オフィスという意識であれば、熱海や三島は新幹線を利用して約1時間で移動でき、予約さえすればゆったりとしたシートに確実に座って移動できるため、車内が既にワークスペースとして捉えることもできる。また土地や住宅の価格尾首都圏と比べれば安いことも魅力であろう。



宮田 将門（みやた まさと） 政策研究事業本部研究開発第2部（名古屋） 主任研究員

ひかりが増えるでしょう。この恩恵は、平均待ち時間を圧縮する形で現れる。要は「乗り遅れると次は30分後、1時間後」などという感覚から解放されるのである。より新幹線が身近な乗り物になるだろう。来たものに乗ろうという感覚に近いかも知れない。このような状況変化は三島よりもさ

オフィスの通勤の選択肢もあることは業種を絞り込まない魅力がある。この移動の容易さは、移住という観点では、「今の仕事を持つままの、転職なき移住」というものに非常に親和性が高いと感じられる。

現時点でも朝の通勤時間帯は静岡県内の区間を走る。立ち客も散見される。それほどまでに新幹線通勤は静岡県内での移動では既にメジャーである。これは通勤時間帯の新横浜から東京方面の通勤客の移動に似た現象であろう。恐らくはリニア時代を迎えると、このような通勤スタイルも増すものと思われる。

静岡のアクセスの良さを考える

リニアでブレない地域へ(1)

初、2027年開通の予定であったが、報道などによると現時点で34年以降の開通とも聞く。延期はやむなしとしても、リニア沿線の地域は開通に向けて、不透明さを抱えながらも、地域活性化のチャンスとして取り組みを展開する状況にある。今回より

4回にわた

り、リニア開

通によって変化が見込まれる地域に注目する。

今回は静岡について考えてみたい。静岡県はこ

た。その理由はリモートワークの普及やそれに伴う通勤時間からの解放である。たまたまに出社する東京の大半がリニアにシフトすると、東海道新幹線に余裕が生まれ、静岡県内に停車する新幹線も増えることも考

さて、リニア時代、東京・名古屋間の移動の古屋間の移動の

えられる。これが静岡県内の市町にとつてどれほどのインパクトとなるか、改めて考えてみよう。

例えば、各駅停車のこだまや速達型（静岡・新横浜・品川・東京停車など）の

また、静岡は東京・名古屋の中間地点であることも忘れてはならない。東京オフィスのみならず、名古屋

（毎週木曜日掲載）

